

## 今を精一杯生きること

山浦 彩子

春のこの善き日にまさかこのような惨事が起きようとは、だれが予測できたでしょうか？自然は私たちに豊かさを与えてくれますが、時として残酷なほどに厳しく、私たち人間には抵抗する術もありません。おさまることなく続く地震に、熊本とその周辺にお住いの方や、ご親戚や知人をお持ちの方々はどんなにか不安で、やり場のない思いを抱えて日々お過ごしのこととお察しいたします。瓦礫のわずかな隙間で生き延びていた赤ちゃんが助けられた報道には奇跡を感じましたが、同時にたくさんの方が亡くなっているのが現実です。毎日のニュースに胸が痛みます。

そんな中、現地のボランティアの高校生の「お年寄りが多いので、僕たちができることがあれば何でもやります」という頼もしいコメントを聞きました。未来を支える子どもたちの生き生きと頼もしい姿に励まされました。3.11のあの惨事がまだまだ記憶に新しく、さらに起こる大きな災害に、私たちは何を学ばよいのでしょうか？ 3.11の直後、ぽけっとにいらしていたたくさんのお母さんたちが、大きな不安を抱いていました。「小さな子どもと家で二人きりでいるのが不安」「津波に襲われたらどうしよう」「放射能が心配で何を食べさせていいか、いけないかわからない」など、また具体的に何がということはなく、ただただ得体のしれない不安に苛まれる方もいらっしゃいました。我が子を守る責任と、予測不可能な自然の災害に立ち向かわなければならない不安感とで、子育て中のお母さんが不安に陥るのは当然のことです。

まずご家族でよく話し合っておかれること、一人で不安を抱えたままにしないで友だちの意見を聴いたり、いざというときに助け合える関係を築いておかれたり、安心できる方法は様々ではありませんが、不安になる材料は一つひとつ解決しておき、いざというときのために備えておくことは大切です。それでもいつ襲い掛かってくるかわからない不安に苦しめられないで、出かけるときには笑顔で。そして今を精一杯生きることが我が子には伝えたいと、私自身は思っています。災害に合われた皆さまへ、心よりお悔やみと、またお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

◆やまうら あやこ(あやこ先生)◆ 特定非営利法人葉山風の子理事長/風の子保育園園長/保育士

## ご案内

### ◆♪いいこといいこと♪のふれあい遊び

毎日 11:00-11:30

### ◆♪いいこといいこと♪Special (予定はHPでご案内しています)

各種園芸活動

わらべうた(わかめの会)・・・月2回 第2火/第4金

えいごで遊ぼう(加藤りみ先生)・・・月1回

リトミック・・・不定期

### ◆「0歳児つどいの広場」毎週木曜 10:00-11:00

### ◆開館時間 9:00-17:00

広場の開放時間は15:00迄、子育て相談・一時預かり・ファミサポ・2F多目的室のご利用は17:00迄です

### ◆休館日 日曜・月曜・祝日

- お盆も変わりなく開館しています

### ◆職員会議・研修 第3木曜

開館時間が12:00迄になります



## 『種・たね』のお話

淵本 あけみ

昨年の秋のことでした。庭に出ていると「フッチーせんせ〜い！」と元気な声！とそこには幼少期にぽけっとによく遊びに来てくれたSちゃん(小4)とTくん(小1)姉弟の姿が。とても懐かしくて久しぶり〜と近づくと大事そうに何かを手で握りしめています。「なあに??」〜すると突然その手をぱっと広げて「この種あげる！」そこには見たことのない小さなサヤのようなものが・・・「これねベビーマラカスって言うんだよ。ほらっ！」その小さな・・・確かにマラカスに似たものを振ると『カラカラカラ.....』ととってもかわいい音が鳴ります！乾燥したサヤの中に小さな種が入っていて、振るとマラカスのように鳴る植物でした。まさにびっくりぽん！です。ぽけっとのお庭に、と持ってきてくれたことがとっても嬉しくて「大事に育てるね！ありがと〜」胸がジーンと熱くなりました。さっきまで種を握りしめていた二人の小さな手・・・思わずぎゅっとして握手をかわしました。(後日、お母様より4つだけじゃ足りないのでしょうか・・・とさらに追加で種をいただいて・・・本当にありがたいです♡)

お花の『種』を通じて、このような温かな会話が生まれ、素敵に成長したお子さんたちから小さな幸せを頂きました。そして、珍しくて楽しい植物を知ることにもなりました。ベビーマラカスは二人が通う小学校で栽培し、種を収穫。その種をご家庭でプランターにまいて花を咲かせ再び種を採り〜そしてぽけっとへ。この植物は種がハート型をしていることから別名『幸福の鈴』と呼ばれているそうです。まるで幸せの『種』が人の手で蒔かれ輪ができていくようですね・・・園芸は円芸に〜人と人のご縁がつながり縁芸へと成長をする素晴らしいものだなあ〜としみじみ感じたできごとでした。気忙しい毎日の中で季節に追い越されまいと必死に作物を栽培してしまうことがあります。そんなことになると、園芸が持つ本質的な良さが生かされませんね。

5月に入ると種まきシーズンに入ります。優しい気持ちで種を蒔いて、ゆくりと穏やかにぽけっとの園芸活動をやって行けますように・・・心あらたに取り組みで参りたいと思います。ベビーマラカスの栽培はぽけっと初！5月に種をまいて、皆で大事に育てて行きましょう。



◆ベビーマラカス◆  
別名『幸福の鈴』  
熱帯地方原産/マメ科一年草

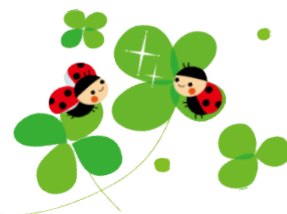
種は黒いハート型の粒  
乾燥したサヤは表皮が固く、  
振ると中の種がカラカラ  
と音を奏でます。  
長さは約5センチ程。  
ポストカードで虹色に着色して  
みたら、ミニチュア  
マラカスに変身！  
現物を見たい方は淵本まで

◆ふちもと あけみ(フッチー先生)◆  
園芸療法コーディネーター/保育士

ひろば・おやこ園芸担当

# 自分らしい子育てを見つけませんか？

今年もほけっとで子育て支援プログラムを開催します



「子どもをかわいいと思えない・・・」 「他のお母さんは上手に子育てをしているのに・・・」

初めての子育てに悩みはつきもの。悩みを乗り越えてこそ、一人前の親になっていくのかもしれませんが、BPプログラム&NPプログラムは、それぞれの想いに向き合い、仲間といっしょに考えることで、自分らしい子育てを見つけたいけるように開発されたプログラムです。自分や仲間どうして問題を解決していくステップを体験できます。山浦彩子と上野祐子がファシリテーターとしてお手伝いします。

## BPプログラム

対象  
2～5ヶ月  
の親子  
(第1子)

母子参加

全4回  
7/8～7/29  
毎週火曜日  
13:00～15:00

参加費  
1000円  
(テキスト代)

詳細は館内ポスターを  
ご覧いただくか、または事  
務室にお問い合わせ  
ください♪

## NPプログラム

対象  
1～5歳  
の母親  
(第1子)

託児つき  
(1回500円)

参加費  
1600円  
(テキスト代)

全6回  
9/2～10/7  
毎週金曜日  
13:00～15:00



## 子のこころ 親のこころ ～子育てをこころの発達から考える～

厳しくした理由…ありのままの自分ではダメだから？

上野 祐子

先日、高校時代の友人たちと10年ぶりに再会して、お互いに近況報告をしました。仲間4人のうち3人は結婚して、子どもが高校生や大学生になっています。ひとり結婚をしなかった友人は、小学校の教師を30年間務めるワーキングウーマン。いつも仕事の苦労話を面白おかしく話してくれるのですが、今回はすこし様子が違いました。昨年、新しい学校へ赴任して一年目に、5年生を担当して学級崩壊状態になり、後半の授業は常時監視役の先生が入っていたというのです。「いくら間違った指導をしているわけではないことを証明するためといわれたって、これまでやってきたことを全否定された気分だった」と、彼女は悔しそうに涙ぐんでいました。

皆でよく会っていた頃は、ちょうど子どもたちが小学生だったこともあって、彼女から教師の立場の話をいろいろ聞いて、とても参考になったものです。じつはそのときに一つだけ気になっていたことがありました。学生時代は『まじめでおっとりとしたやさしい子』という印象だったのに、教師としての彼女は『厳しく叱る怖い先生』だと話していたことでした。自分らしさを押し殺してがんばっている彼女の姿を思い浮かべて、「先生とはそんながんばり方をしなくてはならないものなのか」と違和感が残ったのです。「どうして子どもたちに厳しくするの？ 普段のあなたはむしろやさしく待ってくれるタイプだと思うけど…」私はその疑問を彼女にぶつけてみました。彼女は意表をつかれたようにじっと考えてから「私は教師に向いていないとずっと負い目を感じてきた。子どもが大好きでもないし、教師を熱望していたとかでもないから。努力しなければと思ってた…それが厳しくすることにつながっていたのかな…」と、自己評価が低く『ありのまま』の自分ではダメだとがんばってきたことを話してくれました。なんだか、子どもが生まれて戸惑い、「立派な母親にならなくては」とがんばってうまくいかなかった頃の自分の姿と重なりました。

5年生といえば、自分づくりが一段と進む思春期の入り口。親から自立しようとする意識が強くなって大人に批判的で生意気な口を聞いたりする一方で、「自分のことをわかってほしい」と甘えたい気もちも強くなる不安定な心の状態なので、厳しく抑えつければ反発するのはあたりまえです。自我が芽生えた2・3歳の頃に自己主張して大泣きするのと、そんなに大きな差はありません。

教師の大変さは、家庭でわかってもらえないモヤモヤを抱えたお子さんがたくさんいて、それぞれの様々な気もちを理解して受けとめなければならぬところ。しかも担任ひとりの肩にのしかかってきます。子どもたちがほんとうに求めているのは<親に認めてもらうこと><親に甘えること>なのだから、そういうモヤモヤを教師が解消するのは至難の業です。それでも彼女は別れ際に「もう一度自分らしいやり方を考えてやってみようと思う」と笑顔になっていました。私(母)もいまさらだけれどがんばろう…!

